

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 8 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	広島常光福社会		
事業所名	グループホームげんき中山		
所在地	広島市東区中山新町3丁目18-6 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	平成27年7月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104310-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年8月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームげんき中山は『「明るく」「楽しく」「健やかに」いつも笑顔がたえない生活を目指します』という理念のもと、入居者の皆様が認知症があっても、自分らしく生活できるように、またご家族に安心して頂けるよう、職員一同介護を行っている。例えば施設内の菜園で野菜や花を育て、自然と触れ合う機会を設けたり、食事作りや掃除、洗濯等、様々な作業を通じて役割を持ってもらっている。また地域行事の参加、施設の外出行事の参加により、施設外の方との交流の場を設けている。職員は入居者の方の生活の質の向上に取り組む為、施設内外の研修や勉強会に積極的に参加し、スキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

『「明るく」「楽しく」「健やかに」いつも笑顔が絶えない生活を目指します。』という理念のもと支援され、理念が具体的に実現するために、フロア毎の目標を掲げ、日々意識づけできるようにしている。「利用者の皆様が元気で過ごして頂くためにはどうしたら良いか」を常に考え、日々の支援に精進されている。地域とのつながりを大切にし、日頃の散歩や町内行事（お祭り、大掃除など）の参加や事業所の夏祭りなどの開催により、地域の皆様と日常的に交流を深めるように努力している。利用者個々の生き甲斐、役割（食事の準備、野菜づくり、掃除、洗濯物を畳むなど）を生かし、利用者に寄り添いながら支援をされている。気候に応じて、買い物・外出・ドライブなどの要望を叶える取り組みが、利用者の笑顔に繋がっている。利用者の表情や会話から、“我が家”のように生活されているのが伺えました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は、常に事務所に掲示してあり、いつでも閲覧が出来るようになっている。勉強会の項目にもあり、職員全員で理念について勉強する機会を設けている。げんき中山の理念の「いつも笑顔が絶えない生活を目指します」に対して、毎朝の朝礼で笑顔体操を行っている。	事業所独自の理念を掲げている。職員間で定期的に話し合いを行い、評価・反省・見直しを行うことにより、フロア毎の目標をつくりあげている。まず職員が笑顔でないと利用者の笑顔に繋がらないと思ひ、毎朝の朝礼では、笑顔体操を実施している。日々実践することにより、習慣化されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での行事、町内会行事に積極的に参加して、交流の機会を設けている。1年に1度、施設行事の夏祭りでは、地域の方々や家族と交流を深めている。また日常の買い物も、近くのスーパーに入居者と一緒に行く事もある。	町内会へ加入し、町内行事（町内祭り、大掃除など）に参加している。ホーム目の前には、中学校があり、職場体験学習などの受け入れも、積極的にされている。1年に1度の事業所の夏祭りを開催し、地域の大勢の方が参加されていた。また散歩や買い物などに行くことにより、日常的に交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、近隣の中学生の職場体験学習の受け入れや、大学生の実習として受け入れをしている。認知症の高齢者との関わりについて説明をしたり、理解してもらえようように努めている。また、小学生の「こども110番」で、スタンプラリーの際には、安心して利用してもらえるよう対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、当施設の入居状況や行事報告などの他、各運営委員から情報を得て、情報交換をしている。2か月に1回、テーマを決めて講義等を行い、サービスの向上に努めている。家族や運営委員の方々の知りたい情報を取り入れて行えるように努めている。	参加者からの意見・提案があり、開催時には、テーマ（福祉用具の取り扱い、口腔ケアなど）を決めて勉強会をしている。年3回は、家族会を兼ねて実施し、その内1回（年1回）は食事会（ホテルでランチ）を開催している。災害対策のことを踏まえ、年1回は消防署職員の立ち合いのもと、消防訓練を行っている。	家族会（年3回）以外の実施日は、家族参加が特定の人のみである。家族不参加者への対応として、会議の内容報告が必要と思われる。家族へ会議録を送付することにより、事業所の取組み状況や運営推進会議の意義、あるいは目的意識に繋がり、今後の参加への促しのために、会議録の送付をすることが望まれます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターと情報の交換をしたり、施設の入居状況等を報告することで、協力関係が取れるように努めている。	地域包括支援センターの職員とは、日頃から顔なじみの関係である。利用相談やサービス調整について、連携を図ることが多く、地域包括支援センターの職員を通じて、市担当者との連携を図っている。事業所の入居状況などを報告することにより、協力関係が取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設玄関の施錠は安全の為、外出時に内側から開錠しているが、入居者から外出の希望があれば、可能な限り付き添っている。フットコールやベッド柵を使用する場合には、家族の同意を得ている。拘束に関する外部研修の参加、施設内勉強会の実施により、職員の意識の向上を図っている。</p>	<p>やむを得ず身体拘束をする場合は、家族の同意を得ている。身体拘束をすることは、本人にとって苦痛となるため、外部研修の参加や勉強会などを行い、職員の意識の向上を図っている。現状を把握するなか、評価・見直しを随時行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する外部研修に参加したり、施設内勉強会を実施している。毎月行うフロア会議で、入居者への対応を話し合う機会を持っている。皮下出血や外傷発見時は報告書を提出し、カンファレンスを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な方には、家族に制度活用について情報を提供している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約・解約時は、必ず本人・家族に口頭・書類にて十分な説明を行い、同意を得ている。改定時その都度説明を行い、書面にて同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関内に意見箱を設置し、自由に記入できるようにしている。入居者・家族から苦情があった場合は報告書を作成し、職員間の伝達を行い、早急な解決を努めている。法人で運営するフリーダイヤルの介護相談窓口があり、意見等があった際は、連携して迅速に対応できるようにしている。</p>	<p>入居時に意向を把握したり、面会時などに、家族の生の声を聴くように努力されている。直接言いにくいことも考えられるため、法人で運営するフリーダイヤル”ホットライン（介護相談窓口）”が整備されている。寄せられた要望や意見については、誠意を持って迅速に対応し、信頼関係を築くように心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回、職員会議と各フロア会議を開き、職員の意見をもとに入居者への対応、業務改善を行っている。法人としての業務改善案を職員で出し合い、法人本部へ提出する機会を設けている。</p>	<p>月1回、職員会議・各フロア会議を実施し、利用者の対応方法や業務分担、環境整備など、業務改善の話し合いが多い。意見や提案も出され、管理者は前向きに意見を受け止め、それらの要望を検討・改善するように努めている。尚、年2回、管理者による人事考課の機会を設け、就業環境の整備にも力を入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回、管理者による人事考課の機会を設けている。人事評価の適用や法人内での異動の希望を確認している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成段階に応じた指導や、係の割り当てを行っている。またその段階に応じた、外部研修の参加の機会を設けている。月1回の勉強会は、担当制にして行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>随時、法人内の地域密着施設と合同会議を開催し、情報交換を行を行っている。また法人が開催する行事や親睦会の参加によって、職員同士が交流する機会を設けている。地域の包括支援センターや障害者施設の行事に参加したり、運営推進会議に参加してもらう事で、情報交換を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>不安なく落ち着いた生活が送れるよう、職員との信頼関係を構築し、希望・要望等の訴えやすい環境を作っている。また他入居者との交流の場では職員が間に入り、溶け込みやすい環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居契約時には、家族の要望を聞いて困りごと等、相談にのっている。本人、家族、職員、それぞれが良好な関係が築いていけるよう、カンファレンス等も随時実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族とよく相談し、必要とされている支援を見極めた上で、優先順位をつけ対応している。希望・必要があれば外部の他のサービスも利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ目線で会話をしたり、一緒に散歩や家事をする中で、提供ではなく共に生活するものとして、人間関係を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に行事等に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっている。会議の参加を促したり、状態の変化・訴えがあれば、随時連絡を行い、情報の共有を図っている。衣類等の私物は、家族にも管理を協力してもらい、本人が暮らしやすいよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話をかけたりかかってきたら取り次いだりしている。家族だけでなく、友人知人の面会も受け入れている。年始には年賀状を出している。	家族と相談しながら、本人の馴染みの場所との関係が途切れないようにしている。電話の取次ぎや、年始には年賀状の発送をしている。以前の友人・知人などの訪問がみられ、今まで慣れ親しんだ人と関わることにより、利用者の表情が明るくなってきている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	散歩、家事やレクリエーションなどを通して、一緒に行く機会を設けたり、気の合う同士で座るようにし、食事など一緒に楽しめるようにしている。また、会話では職員が間に入る事で、打ち解けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約時に、退居前後の事まで前もって説明し、退居前にも本人・家族からの相談に乗り、安心してサービスが利用できるように支援している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の日常生活の中で、本人の言動や職員からの問いかけなどによって、得意、苦手な分野を把握した上で、本人の思いに添った、過ごしやすい環境づくりを支援している。	生活歴や日々関わりの中で、要望を把握できるように努めている。本人の能力を奪わない支援に心掛け、利用者個々の役割（畑仕事、水やり、掃除、洗濯物を畳むなど）を生かし、介護計画に反映され実行に移している。「習字がしたい」との要望があり、家族の協力を得て、週1回”習字の日”の実現が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴アンケート調査を行っている。また、基本情報や本人からは、生活歴や食事嗜好調査などを、日頃の会話などから聞いて、把握に努めている。家族に対しても、必要に応じて生活歴を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録、フロー伝達ノートやフロー会議を通じて、現状把握するようにしている。また、随時、職員間での情報交換を密にして、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族の希望にそったより良い生活が送れるよう、介護計画を作成している。また月に1回、ケース担当者が介護計画の評価を行い、現状に合わないプランは随時見直しをしている。ケアプランカンファレンスでは、多くの職員が参加できるように時間を設定し、多角的な意見が出るようにしている。</p>	<p>状態を把握しているケース担当者(利用者1~2人)が、サービス担当者会議の進行などを行っている。アセスメントの結果は適切なケアプランに生かされ、一定の期間で見直しを図っている。活動や役割、日々の生活が楽しく、今までの生活習慣が維持・継続できるように、具体的な介護計画を作成及び実施をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケース記録を細目に記入し、入居者の変化などを、職員間で共有できるようにしている。また現在のケアに対して、フロア会議を月1回開き、検討し改善をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人を母体とし、法人の持つ多種に亘る運営施設、事業所との連絡を取りながら対応を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会の活動や、地域福祉施設の行事へ参加したり、近隣の商業施設に買い物や昼食を食べに外出している。また行事の夏祭りでは、地域の方々を施設に招き、入居者と交流する機会を設け、多くの方々に参加をして頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各協力病院に対して、入居者の希望や必要な医療が受けられるよう、日頃から連絡を取りながら支援をしている。必要に応じて、医師と相談し、往診や入院の受け入れ体制を整えている。他科受診が必要な場合には、家族とのスケジュールの調整、薬の管理等を行っている。</p>	<p>入居時に説明し、事業所の協力病院での対応をお願いしている。病状変化などあれば、医師と相談し、協力病院以外の病院受診など行く場合は、家族対応をお願いしている。訪問歯科・協力医の往診体制(1回/2週間)があり、事業所として、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、かかりつけ病院の看護師に定期訪問してもらい、助言・指導を受けている。利用者の現状を訪問看護時に報告し、その都度主治医に伝えてもらう事で、適切な診察や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先へ情報提供を行っている。入院中にも病院を訪問し、利用者・家族との面会、病院関係者と情報交換を行っている。退院時にも病院関係者と連絡を取り合い、情報提供してもらう事で、退院後の生活も安心して生活が送られるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について、契約時に書面にて説明、確認を行い、方針を共有している。重度化した場合は、家族に連絡を行い、かかりつけ医を含めて、今後の方針を話し合って決めている。	医療施設と同様の対応は難しいことを、契約時に説明している。ホームとして、看取りの経験はあるが、医療経験のある職員が常時勤務している訳でないため、重度化や終末期には、医療機関との連携が不可欠なため、主治医に意見を聞き、家族と検討を行い、ホームとして最大限可能な範囲で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時や緊急時のマニュアルを作成しており、事務所内にいつでもすぐに見られる様、提示している。又、定期的実践を取り入れた勉強会を行い、指導すると共に、職員全体のレベルアップを図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、春と秋の2回、日中と夜間を想定した防災訓練を行っている。夜間想定訓練では、所轄の消防署、町内会を交えての合同訓練を行ったり、運営推進会議にて、地域の方々の協力が得られる様に働き掛けている。	年2回の訓練実施や、同グループが近隣にあり、法人としての協力体制がある。運営推進会議を通じて、町内会長が協力的であり、近隣住民の協力が得られるように働き掛けている。訓練内容として、昨年(平成26年度)は煙体験。今年(平成27年度)は、放水ホース体験を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	思いや訴えは傾聴し、自尊心を傷つけない声掛けを意識している。ノックと声掛けをして、居室・トイレに入ったり、入浴時は脱衣場を施錠する等の対応を行っている。定期的にプライバシーについての勉強会を行う事で、職員間の意識を高めている。	入社時には、社内研修をしている。利用者の尊厳やプライバシーを守るため、定期的に研修を実施している。フローア目標として、「プライバシーの確保」と掲げ、職員間の意識を高めている。居室やトイレなどの訪室時には、必ずノックと声掛けをするなど、当たり前のこととして徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃より入居者とコミュニケーションを積極的に取る事で、会話の端々にある希望や思いを汲み取るようにしている。思いを伝える事が難しい方には、選択肢を用意して、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人がその日を、どのように暮らしたいか希望を聞き、本人のペースに合わせ過ぎてもらっている。日常生活をゆっくり過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人が着たい服を着てもらったり、外出時や行事の時は、よそ行きの服と一緒に選んだり、その場に応じた服装を選んでもらっている。化粧もできるよう化粧道具も準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人に嗜好調査を行い、その人がおいしく、楽しく食事ができるよう支援している。また入居者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	食材（副食）のみ業者からの宅配があり、3食手作りの食事提供をしている。ホームの畑で栽培した野菜を活用し、その日の採れた野菜で職員と利用者が一緒に下準備など食事づくりを楽しまれている。年に数回の行事食（外食）を取り入れ、食事が楽しめる工夫や雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	その人の状態や病気を把握し、食べる量を決めている。バランスの良い食事になるよう、食事担当者が考えている。アレルギーのある方には、代替の食事を用意している。必要に応じて、食べやすい形態で提供している。食事摂取量も記録している。必要に応じて水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きを行ってもらえるよう声掛けし、自ら行ってもらっている。ひとりで歯磨きが難しい人は、介助を行っている。毎週日曜日は、入れ歯洗浄剤で消毒を行っている。毎週、歯科往診があり口腔ケアや治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて排泄表を作成し、その人に合った排泄方法をフローア会議・ケアプランカンファレンス等で検討している。声掛けによるトイレ誘導や、下着確認、日中と夜間でパット類の変更、ポータブルトイレの使用等、個々の自立に向けた排泄支援を行っている。	個々の排尿および排泄習慣を把握し、下着が汚れないように、声掛けや見守りを行い、極力トイレ誘導を行っている。トイレは、1ユニット（定員9名）に3箇所あり、内1箇所は車いす使用者でも可能なスペースを確保している。食事の工夫や適宜の水分摂取、散歩、体操などを取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事面では麦ご飯や乳製品、野菜ジュースを食事に取り入れ、日常生活では、ラジオ体操やリハビリ体操、散歩を行い、便秘予防に努めている。個々の状態に合わせ医師と相談の上、下剤調整を行い、便秘解消を働き掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入浴ができる環境で、本人の希望に合わせて入浴を行っている。個々の状態をしっかりと把握し、脱衣場の施設を行う等、羞恥心に配慮しながら入浴支援を行っている。	少なくとも週2回は、入浴してもらうように配慮している。時間については、夜間に近づけるため、午後（14：00～16：00）としている。入浴時には皮膚トラブルが無いか確認したり、身体状況に応じて、湯船に浸かったりシャワー浴を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個々の状態に配慮した上で、日 中レクや日常生活の支援及び、活 動のできる場を設ける事で、心地 よく眠れる環境作りを心掛けてい る。本人の馴染みの布団や枕を 使用している入居者もいる。エア コンでの室内温度調節行い、快 適な睡眠が出来る様配慮してい る。又、眠前薬の服用時間にも 配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医の指示を受け、薬担当者 が中心となり、内服薬、外用薬を 把握し管理している。又、職員 全員が同じ支援できる様に申し 送りや伝達ノートで伝達してい る。処方箋は、個人ケースに綴 じており、いつでも確認が可能 である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人や家族の希望やできる事 を見つけ出し、フロア会議やカン ファレンス等で検討し個々に合 った役割を提供している。又、苦 痛なく楽しんで役割を行う事が できる様、日々の体調や気分に 配慮する様にしている。嗜好品 も希望があれば持ち込み自由 であるが、管理が必要な方は 本人、家族の同意のもと預かり 管理している。入居前の面接 時又は入居時に生活歴アンケート を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	外出行事等に参加してもら っている。ただ、毎回全員参加 は難しいので、希望者又は順 番に出掛けている。施設の買 い物にも一緒に出掛け、気分 転換を図っている。日常の生 活の中で、散歩や外気浴の時 間を設け応じている。又、家 族の協力のもと外泊や外出を 行っている。	年間計画を立案し、気候に 応じたドライブ（初詣、平和 公園など）、地元の祭りに 参加している。ホーム周辺 が散歩するには適した立地 であり、気候が良ければ毎 日のように散歩されている。 時に外食や買い物など外出 を通じて、地域の皆様と交 流が図れるよう機会づくりに 努めている。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応 じて、お金の所持したり使 えるように支援している。	小口預金通帳を入居時に 作ってもらい、外出行事等 で買い物をする場合等に活 用している。自分でお金の 管理をしたい方は、少額の 現金を家族同意の上で行 い、買い物や自販機を利用 の際に使っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙、電話のやりとりが円滑に行えるよう援助している。携帯電話を所持されている方は、自由に家族とやり取りをされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節によって、壁画を入居者と共同で作成し、リビングに季節感を出すようにしている。食事用の椅子は個々にあった物を用意し、落ち着いて食事ができる環境を整えている。空気清浄器、加湿器、温度計等を設置し、定期的に空気の入替えを行う事で、居心地のよい空間を提供している。	展望も良く、四季を感じる設計であり心地よい環境である。リビングからテラスには自由に入出りできるようになっている。気温や湿度を確認され、換気や室温調整を行い、利用者の健康管理に努めている。毎日の掃除により清潔であり、職員も穏やかな対応に心掛け、一人ひとりが心休まり安心して生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者同士で、食事ができるよう座席の組み合わせに配慮している。リビングにはテレビ・ソファがあり、リビングからテラスには自由に入出りできるようになっており、思い思いに過ごせる環境になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や日用品の持ち込みは、自由に行っている。写真や花が飾られ、住み慣れた環境になっている。入居者が生活しやすいよう身体面を配慮したベッド、家具の配置にしている。	ベッドやエアコンはホームで用意されている。本人や家族と相談しながら使い慣れた家具など、生活必需品を自由に持ち込まれている。本人が安心して過ごせる場所となるように、本人や家族と相談しながら工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々の日常生活の中で、できる事を活かし役割を持ってもらうようにしている。本人・家族同意のもと、居室に個人名を表示したり、トイレ・浴室・洗面所等大きく明記し、自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 平成27年9月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族の参加が特定の人のみになっている。その他の家族にも内容報告が必要。	・参加者以外の家族にも内容を報告できるような環境作りを心掛ける。	・請求書送付時等議事録写しを添付して送付 ・来園時等いつでも報告できる様職員間での報告事項の確認・把握	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。